

公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 部分公開
	<input type="checkbox"/> 非公開	

令和4年度第1回浜松市母子保健推進会議 会議録

1 開催日時 令和4年7月14日（木） 午後1時30分から午後3時

2 開催場所 浜松市口腔保健医療センター A・B会議室

3 出席状況 委員

[現地参加] 梅ヶ枝 裕子委員

[web参加] 伊東 宏晃委員、稲本 裕委員、石井 廣重委員、大木 茂委員、大場 悟委員、鹿野 共暁委員、神崎 江利子委員、森園 直美委員、齋藤 由美委員、

事務局 鈴木 達夫（医療担当部長）、板倉 称（健康福祉部医監）、平野 由利子（健康増進課長）、渥美 雅人（健康増進課長補佐）、伊藤 梓（健康福祉部技監）、小山 東男（子育て支援課長）、健康増進課職員6名、子育て支援課職員1名

オブザーバー 精神保健福祉センター職員2名

4 傍聴者 4人

5 議事内容

- (1) 令和3年度 浜松市母子保健事業 事業実績報告
- (2) 令和3年度 浜松市児童福祉事業 事業実績報告
- (3) 令和3年度 産後ケア事業 実績報告
- (4) 流産・死産・中絶・新生児死亡等を経験した女性等への心理社会的支援等の体制整備
- (5) 産科・精神科・行政等の連携
- (6) HPVワクチンのキャッチアップ接種について
- (7) 【報告】健康増進計画（親子の健康）の評価における健康調査（市民アンケート）について
- (8) 【報告】子育てサポートファイル「はますくファイル」の見直しについて

6 会議録作成者 健康増進課母子グループ 菅沼

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 ・無

8 会議記録

定刻の午後1時30分に開会し、事務局から資料の確認、委員の出席数の報告、情報公開の確認、報道機関の取材と傍聴者の了承、精神保健福祉センター職員2名（オブザーバー参加）の紹介を行った。

2 議事

(1) 令和3年度 浜松市母子保健事業 事業実績報告

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】新生児聴覚スクリーニング検査97%は本来100%を目指すものだと思いますが、未受診の3%はどのような理由でしょうか。

【事務局】出産後そのまま長期入院をして、市の受診券を使用せずに聴覚スクリーニング検査を実施しているケースが考えられます。このケースは請求が上がってこないため件数を集計できません。また、里帰り出産で他県他市に行っている方は浜松市に戻ってきてから請求書を提出頂いてお支払いをする償還払いとなります。償還払いは出産から1年以内に申請となっており、まだ未申請の方もいると考えられます。

【委員】聖隷浜松病院のNICUだけでも10人以上は本検査をやって新生児聴覚スクリーニング検査をやっていない場合があります。思っていたよりも未受診の方が少ない印象です。

【委員】HPVワクチンは盛んだった時に7割程度の接種状況だと思いますが、現状は5割も満たないように感じます。毎年通知を送付する以外にもう一押し勧奨が必要だと思います。何か対策等は検討されていますか。

【事務局】リーフレットを対象者に対して送付しておりますが、今後については対象者がいる大学や企業に対して呼びかけを行っていきたいと考えております。

【委員】キャッチアップ接種については分かりました。定期接種についてはいかがですか。

【事務局】中学1年生が標準になりますので思春期教室での勧奨等検討してまいります。

【委員】接種者数は急速に伸びていると思いますが、まだ過半数のコンセンサスまでいっていないように感じます。メディアの利用や医師会と協力する等もう少し広報活動が必要だと思います。

【事務局】他の政令市の勧奨等も参考にいき、先生方ともご相談しながら何か策を検討していきたいと考えております。

【委員】1歳6か月児健診は集団健診のため100%に近い数字ですが、未受診者のフォローはどのようにしていますか。

【事務局】未受診者は必ず地区の担当保健師からご連絡をしております。発達確認やお母さんの養育確認について電話や家庭訪問、または直接会えない方については園等で確認を行うことで出来るだけ全ての方の状況を把握出来るよう努めております。

(2) 令和3年度 浜松市児童福祉事業 事業実績報告

【事務局】子育て支援課より、資料をもとに説明。

【委員】コロナの影響はほぼなく実施できているということで間違いないでしょうか。

【事務局】各事業においてコロナウイルスの感染対策を行いながら出来る範囲での実施をしております。感染が拡大した場合、または子育て支援広場事業等で会場の園が休園になっている場合等は状況に応じて広場を一旦お休みする場合がございますが、なるべく事業が展開できるよう感染症対策を講じながら行っているところでございます。

【委員】養育支援ヘルパーで令和4年度実績がすでに訪問回数延べ100回を超えているとのことのお話でしたが、急激な伸びですので何か動向等追加説明がありましたらお願いします。

【事務局】今年度に入りまして時期的にはたまたまというところはございますが、特定妊婦で上がってきた方が元々施設出身者で養育モデルがないご家庭のケースがありました。養育支援訪問員を導入し、養育について家庭での支援をしていましたが、家事等、毎日の生活のことについても指導が必要であり、専門的な養育に加えてヘルパー的な伴走支援も必要となりました。その他にもネグレクト家庭で市の支援を拒んでいた家庭が、市からのアプローチでヘルパーを受け入れてくれたケース、知的障害をお持ちの保護者の方で自立支援ヘルパーの申請に時間がかかるために、その間養育支援ヘルパーを利用しているケースがありました。

【委員】全体の傾向というよりは特定のご家庭が延数を増加させている状況ということですね。

【事務局】おっしゃる通りです。

(3) 「令和3年度 産後ケア事業 実績報告」

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】利用者も増えており、随分と定着していますね。宿泊型だけではなく色々なパターンにしたことも利用者の増加につながっていると感じます。大切な事業で上手く動いていると思います。委員の皆様いかがでしょうか。

【委員】素晴らしい事業だと思います。授乳に時間がかかる方等にもこの事業があることで継続して支援ができるため、とてもありがたく利用させてもらっています。これからも続けてほしいと思っています。また1点、先ほどの訪問事業とも関係しますが、家に来た保健師さんから体重の増えが悪いねと言われたお母さんの話をよく耳にします。母乳栄養の方に多く見られますが、母子手帳の発育曲線で見ると確かに伸びが悪いように見えます。しかし実際には、母乳栄養の発育曲線を見ると問題ない方も多くありますのでご注意頂ければと思います。

【委員】事業自体は良い方向で進んでいると思いますが、以前までは4ヶ月までのお子さんを対象で、現在は1歳児までが対象となっています。半日や1日のデイサービスではどのようなスペースでお子さんをお預かりしているのかの確認ができていくか心配です。実態調査等ができることでより安全に皆さんに使って頂けるのではと思います。

【事務局】現在市が委託している医療機関や助産所全てを回って環境を確認しているわけではご

ざいませので、安心安全な産後ケア事業が提供できるよう各施設にも市の方で見て回りながら実態調査も検討していきたいと思ひます。

(4) 流産・死産・中絶・新生児死亡等を経験した女性等への心理社会的支援等の体制整備

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】本件は支援者のスキルアップが大きな課題であると思ひますが、現在どのような状況であるかご説明をお願い致します。

【事務局】現在予定しておりますのは、令和4年10月頃に母子包括支援ネットワークを行政主催で開催しますが、その中で自助グループの方々にお越し頂いて生の声をお聞きできるようセッティングを考えております。また静岡県立大学にグリーンケア専門の先生がいらっしゃいますので、講師として今年度研修をして頂くよう依頼しようと検討しております。

【委員】そこでの問題は、リーフレットが先行すると問い合わせがくることが予想されます。最低でも1回、2回研修をした上でリーフレットを配布して頂くよう配慮願ひます。

【事務局】ありがとうございます。そういった形でリーフレットを活用できるよう検討してまいります。

【委員】一番遅れている点でもあり、本当にこれからの取り組みが必要となります。期待しております。

(5) 産科・精神科・行政等の連携

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】産科と精神科の連携が定期的に議題にして頂けるのは素晴らしいことだと思ひます。せっかくですのでオブザーバーの方々からも一言頂ければと思ひます。

【事務局】このように母子保健推進会議に参加させて頂くことを始め、皆様と連携させて頂ければと思っております。今回調査した結果で様々な課題が見えてきており、スタートラインに立ったと考えております。今後ともよろしくお願ひ致します。

【委員】将来に向けての希望ですが、産科から精神科への受診が必要となった際に探すのが大変です。さらに見つけても予約が1カ月後といった現状です。願わくば、例えば未熟児センターのように、そこに電話すれば斡旋できるといったシステムが出来れば産科としてはありがたいです。

【委員】道は遠いかもしれませんが、産科側としてはぜひという思ひです。石井委員はいかがでしょうか。

【委員】この半年間でも本当に困った方が2人程いましたが、どこの精神科でも受け入れてもらうことができず近くの臨床心理の先生等にお願ひせざるをえませんでした。幸い自殺する程ひどくなく、今は回復していますので安心しています。半年に2人、3人は必ずいらっしゃるのでは、言われたようにどこかに連絡したら必ず見てくれるようなシステムをぜひお願ひしたいと思ひます。

(6) HPV ワクチンのキャッチアップ接種について

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】実際産婦人科としてキャッチアップ接種はほぼ動いていないと実感しており、いくつかの問題点があると思います。既に成人しており住民票だけが浜松で東京に出ている学生も少なくないため、実家にリーフレットを送付しても効果が無いと考えられます。産婦人科や小児科にかかりにくい世代へのアプローチが非常に大切です。少なくとも1つお願いしたいこととして、リーフレットが令和4年度は1回だけ送付になっています。ぜひ対象となるこの3年の期間には、年3回の送付をお願いしたいです。そして職場や学校にも積極的に勧奨して頂きたいです。また、がん検診と一緒にの方法で周知とのことですが、若者のがん検診は15%程度の受診率だと思います。同じ方法だと空振りになる可能性が高いと思います。他の委員の皆様はいかがでしょう。

【委員】浜松市のTwitterやInstagramは利用していますか。

【事務局】現在は使用しておりません。

【委員】若い人は見ますのでぜひ使いましょう。

【事務局】ありがとうございます。こちらでも活用しながら周知していきたいと思います。

【委員】HPVワクチンは3回接種で半年かかります。3年あると言っても2年半、さらには既に3ヶ月、4ヶ月経過しておりますので実質2年程度しかない想定で広報を検討していく必要があります。

【委員】内科にかかられたときに、内科の先生からも女性に接種を促すことを医師会にお願いすることは難しいでしょうか。

【委員】難しくはないです。また医師会の理事会でも既にお願ひしていますが、危機感は婦人科ほど持っていないです。

【委員】それから若い人達は元気で受診機会も少ないですね。

【委員】わざわざ注射を打ちに行くことはしないと思いますので、風邪を引いたときに内科の受診の機会に接種を促すしかないですね。

【委員】半年ごとに実数把握をしないといけないですね。少ないという数値が出たのであれば新聞等で啓発することも必要だと思います。

【委員】大学生は難しいと思いますが、市内の高校に働きかけるというのは市からできないでしょうか。県立高校という事情はあると思いますが、高校生だけでもキャッチアップ接種を勧奨できないでしょうか。

【事務局】新型コロナワクチンでも同様でしたが、中学、高校を通すと副反応の問題もあり高校として受け入れてもらえるかが課題となります。可能かどうかを探ることはできますので、一度確認をしたいと思います。

【委員】子宮頸がんワクチンを高校がダメと言うのでしょうか。

【事務局】前回令和2年度の定期接種でもリーフレットを送付する際に学校を通すか直接送付するかで検討しました。高校の養護教諭の先生から、学校を通すと質問をされる可能性や高校から出したと見られてしまうことで保護者の方が過敏に反応してしまうとの意見がありました。その

ため前回は、個別送付という形を取らせて頂きました。

【委員】学生が自分達の大学で説明したりしますが、口コミで広がるのではないかと思います。また友達同士で相談をしていることが多いので、核になる子を入れるのが一つの手です。それから学生は新聞を読みません。テレビも見ません。ラジオも聞きません。Instagram やインターネットで情報を得ていますので、学生世代を動かすには Instagram や TikTok 等の SNS の活用がないと厳しいのではないかと思います。

【委員】浜松市では SNS を何か持っていますか。

【事務局】浜松市では YouTube、Instagram 等があります。TikTok はありません。何か活用できる SNS がないか確認したいと思います。

【委員】核になる学生からの発信をお願いしてくのも一つの手だと思います。大学生以上は本人達が考えて行動することが多いですが、中学生や高校生は母親がどう考えるかです。家庭訪問に伺った時は、親御さんに必要性を話しています。どこで聞いても必要だと思うような共通なものがないと難しいのではないかと感じます。高校生がワクチンをうちたいと思ったときに婦人科や小児科に一人で行くことは少なく、多くは親がついていくことになると思います。個別のアピールも大事ですが、学校を通して勧奨していくことが必要だと感じます。養護教諭の先生が質問されると困ると言われるのであれば、窓口は全て保健所で結構ですと言うような形でも勧奨してけると良いのではと思います。

【委員】定期接種を学校側が反対するのはどういう事情ですか。

【事務局】前はまだ積極的勧奨が再開される前に、リーフレットの郵送を実施しました。今回は積極的勧奨が再開されており、定期接種に位置付けられています。再度学校を通して勧奨できるか検討していきたいと思います。

【委員】学校側から反対された場合は、積極的勧奨が始まり定期接種の位置付けですが本当に協力しないかを逆に聞いてもよいのではないかと思います。

(7) 【報告】健康増進計画（親子の健康）の評価における健康調査（市民アンケート）について

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】このアンケートをどのように生かしていくか、コメントを頂ければと思います。

【事務局】今回のアンケートと実際に浜松市が持っているデータ等を総合的かつ多角的に見ることで、次期の計画に反映させる予定です。最終評価が出た所でご報告させて頂き、もしよろしければご意見等も頂ければと考えております。

【委員】特定の領域ではなく、全体に広くという形ですね。

(8) 【報告】子育てサポートファイル「はますくファイル」の見直しについて

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】旧版のはますくファイルは書き込みが多いことが大きな特徴だと思います。書き込み欄

が良い、書き込んでいられない等意見が分かれていたと思いますが、今回の見直しでは書き込み欄はどのようになっているでしょうか。

【事務局】書き込み欄の項目については減らしておらず、書き込みが可能です。今回ファイル自体が小さくなっていますので、枠は小さくなっております。その分、読み取って頂く情報はデジタル化するという方向に見直しております。

【委員】前のファイルの時には、1 か月、4 か月、10 か月の記載欄と各月毎の様子、次のページに4項目ほどのチェック項目があり、チェックをすることで今後の関わりを考えることができたため、とても良かったと思っています。そのチェック項目等があるサイトにとぶQRコードはないのでしょうか。自分のお子さんの発達段階の確認や発達を促すヒントになるのではないかと思います。

【事務局】子育てに対するポイントは残しておりますが、月齢毎のチェックポイントを細かくは残しておりません。各月の全てにおいて、ページの上段に発達や発育についての確認のためのQRコードを設けております。もしくはLINEにて月齢に応じた発達のポイントを配信致しますので、それを見て頂きながらサイトへ誘導する形で発達の確認をして頂ければと考えております。

(9) その他

【委員】全体を通してご意見がありましたらお願い致します。

【委員】はますくファイル、ぴっぴとのLINE連携、子育て世代包括支援センターのLINE連携について家庭訪問で伝えています。LINE連携している方が非常に少ないと家庭訪問時に感じます。どこかで啓発する窓口があれば良いと思います。

(10) 事務局より連絡事項

【事務局】1点連絡事項を申し上げます。次回の会議の開催ですが来年2月頃を予定しております。会議の開催日が決まりましたら改めて皆様へ通知の方をさせていただきますので、よろしくお願い致します。